

## 発掘調査成果展示会・発掘調査成果発表会

概要：当財団が平成24年度に実施した発掘調査成果を速報として公開します。  
展示会では各遺跡から出土した遺物を陳列し、細部までご覧いただくことができます。  
また、職員による解説も随時行います。  
発表会では発掘調査を担当した職員が調査で撮影した写真を多数用いて、臨場感あふれた成果の発表を行います。

日時：【発掘調査成果展示会】  
12月4日（水）～12月8日（日）まで

【発掘調査成果発表会】  
12月8日（日） 9:30～16:00

場所：栄区民文化センター リリス 〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷1-2-1

JR根岸線「本郷台駅」から徒歩3分

料金：無料／定員：発表会は300名／申込：不要

※詳細は決定次第、チラシ・当財団ホームページ等でお知らせいたします。

## 三都県公開セミナー（東京・神奈川・埼玉／財団）

概要：今年度は埼玉県埋蔵文化財調査事業団の主催で縄文時代後晩期のムラの暮らしをとりあげ、各法人が最新の調査成果を発表し、当該期の様相を検討していきます。

日時：1月13日（月）祝日 10:00～16:30

場所：埼玉会館 小ホール 〒336-8518 さいたま市浦和区高砂3-1-4

JR浦和駅（西口）下車 徒歩6分

料金：無料／申込：不要

主催：公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

共催：公益財団法人東京都スポーツ文化事業団 東京都埋蔵文化財センター

公益財団法人かながわ考古学財団

※詳細は決定次第、チラシ・ポスター・各法人のホームページ等でお知らせします。

## その他の行事

### 平成25年度 第4回考古学講座

日時：10月26日（土） 13:30～15:30

場所：茅ヶ崎市コミュニティホール

講師：茅ヶ崎市教育委員会 大村浩司

料金：無料 定員：200名 事前申込 ※締切10月15日

### 平成25年度 第5回考古学講座

日時：12月1日（日） 13:30～16:00

場所：伊勢原市中央公民館 展示ホール

講師：伊勢原市教育委員会 井出智之

かながわ考古学財団 天野賢一

料金：無料 事前申込：不要

※詳細については神奈川県埋蔵文化財センターにご確認ください。

### 第25回 考古資料展「伊勢原の遺跡」

概要：平成25年度に伊勢原市内で行われた発掘調査で出土した土器や石器などを展示します。

日時：平成26年2月21日（金）～2月23日（日）

場所：伊勢原市立中央公民館

料金：無料（申込必要なし）

### 平成25年度 伊勢原の遺跡調査報告会

概要：平成25年度に伊勢原市内で行われた発掘調査成果について報告会を開催します。

日時：平成26年3月15日（土）

場所：伊勢原市立図書館 2階AVホール

料金：無料（申込必要なし）

※詳細については伊勢原市教育委員会にご確認ください。

発掘帖バックナンバーはホームページ (<http://kaf.or.jp>) からダウンロードできます。

※かながわ考古学財団は2011年4月1日より公益財団法人に移行しました。

お申し込み  
お問い合わせ

(公財) かながわ考古学財団 野庭出土品整理室  
〒234-0056 横浜市港南区野庭町1660 E-mail: fukyu@kaf.or.jp  
TEL: 045-842-9888 (平日) 8:30～17:15  
FAX: 045-842-9904

※当財団の普及事業の一部には、文化庁の国宝重要文化財等保存整備費補助金を活用しています

# 考古学財団発掘帖

通巻  
20号

かながわ考古学財団情報誌

平成25年10月27日発行



石敷道路状遺構調査風景

現場見学会

## 伊勢原市

## 伊勢原市No.163遺跡

伊勢原市No.163遺跡は、小田急線伊勢原駅の北西約3.5kmに位置しています。平成25年5月より実施している発掘作業において、大山街道に隣接する鈴川左岸の段丘面につくられた中世の石敷道路跡が発見されました。この道路跡は、大形の川原石を縁石として一直線に配し、路床に人頭大の川原石を敷き詰めた特徴的な形態を呈しています。幅3.6～3.8mを測り、現状で延長23.8mが確認されています。路盤から出土した遺物の年代観から、13～14世紀代につくられたものと考えられます。周辺の地面より一段高く設えられたその形態は、鎌倉の段葛を彷彿とさせるもので、おそらくは大山山麓につくられた寺社の参道ではないかと考えられますが、鈴川を挟んだ対岸の段丘面に位置する子易・大坪遺跡で発見された中世の屋敷との関連にも注目される大変貴重な発見といえるでしょう。

2013年9月7日、この石敷道路跡を対象とした現場見学会を開催しました。残暑厳しい中、150名を超える県民の皆様におこしいただき、設置した見学台からの景観を楽しんでいただきました。

## 目次

### ● 発掘現場・出土品インフォメーション

- ・伊勢原市:伊勢原市No.163遺跡
- ・平塚市:真田・北金目遺跡群  
真田城跡 第2地点
- ・海老名市:跡堀遺跡
- ・伊勢原市:伊勢原市No.71遺跡

### ● こんなものでたよ

- ・下馬周辺遺跡出土 鎧その後

### ● 行事案内

- ・平成25年10月～平成26年3月までに実施する案内詳細



(公財) かながわ考古学財団

〒232-0033 横浜市南区中村町 3-191-1

☎ 045-252-8689 FAX 045-261-8162 URL <http://kaf.or.jp>

# 発掘現場・出土品整理 インフォメーション

はじめまして。  
はちまき土偶の兄妹  
はちくんとまきちゃんです！  
発掘調査や出土品整理中の  
遺跡を紹介します。



## 真田・北金目遺跡群 真田城跡 第2地点 (さなだ・きたかなめいせきぐん さなだじょうあと)

(所在地)	平塚市	(時代)	近世、中世、奈良・平安時代 古墳時代、弥生時代、縄文時代	(調査期間)	2012年10月～2013年7月
-------	-----	------	---------------------------------	--------	------------------



堀の土層堆積状況

遺跡は、平塚市北西部に位置し、秦野市と伊勢原市の市境付近にあたります。真田城は丹沢山地の南側に形成された標高約25mの台地上に構築され、金目川と大根川に挟まれた半島状に伸びる台地縁辺部を主体に堀が複雑に張りめぐらされています。東には相模平野が広がり、西には富士山を望む眺望に優れた場所です。真田城は、源頼朝の旗揚げに貢献した三浦氏一族岡崎氏の系譜を持つ真田与一義忠による築城と言われています。今回の調査では、断面形は逆台形を呈する堀の掘り込みの急峻な壁の立ち上がりなどが確認されました。埋没年代は出土遺物である「かわらけ」の年代から15世紀から16世紀の所産であると考えられます。

## 跡堀遺跡 (あとぼりいせき)

(所在地)	海老名市	(時代)	近世、中世、奈良・平安時代 古墳時代、弥生時代	(調査期間)	2013年4月～2014年3月
-------	------	------	----------------------------	--------	-----------------



溝状遺構

跡堀遺跡は海老名市の南西部、JR相模線門沢橋駅の北西約0.6kmの相模川左岸の自然堤防上に立地しています。新東名高速道路建設に伴う発掘調査で、かながわ考古学財団で行うのは3回目になります。左の写真は調査区東側を南北に走る溝状遺構で、前回の調査で報告されている溝状遺構の続きになります。幅4.3m深さ1.0mで、中央に幅1.6m深さ0.4mの水抜きと思われる溝を伴っています。断面形は逆台形を呈しており、しっかりした壁が作られています。遺物は、中国から輸入された龍泉窯系の青磁香炉片や在地のかわらけ等が出土しています。規模などから居館等の堀の可能性も考えられます。今後北へ調査地点が移りますが、連続する溝状遺構が確認されることが予想されます。

## 伊勢原市No.71遺跡 (いせはらしなんばー71いせき)

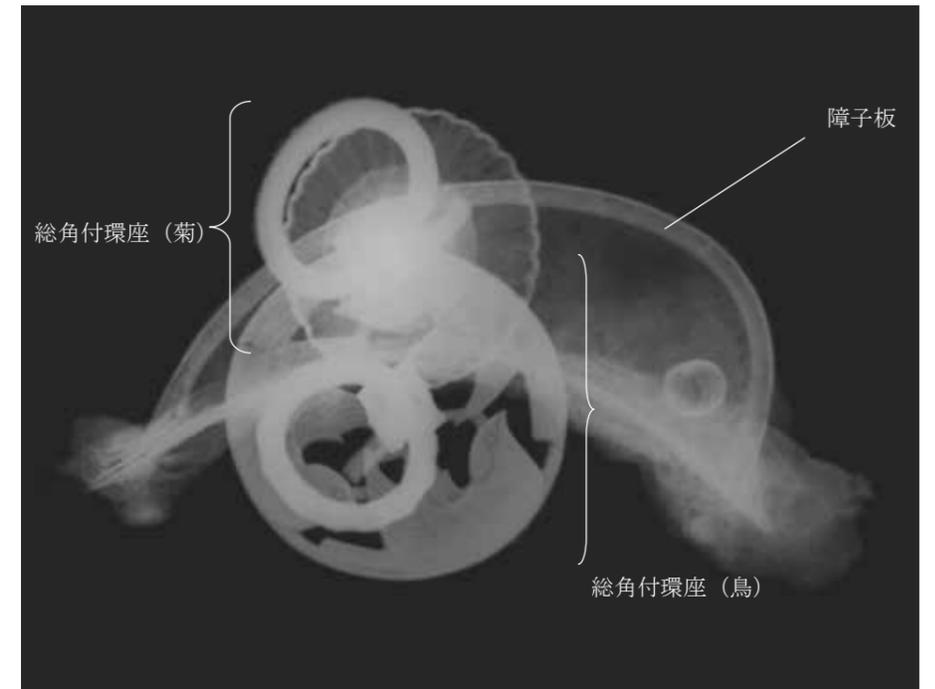
(所在地)	伊勢原市	(時代)	近世、中世、奈良・平安時代 古墳時代、縄文時代	(調査期間)	2010年10月～
-------	------	------	----------------------------	--------	-----------



溝状遺構

本遺跡は伊勢原市東富岡および栗窪に所在し、小田急小田原線伊勢原駅北方約2kmの標高35～37mの台地上及びその周辺に立地しています。調査は、中日本高速道路株式会社による新東名高速道路建設事業に伴う事前調査として2010年10月から実施しており、今年度は台地南東部の緩斜面部分の調査を行っています。写真は中世から近世にかけて利用されていたと考えられる道状遺構です。調査区の東端で検出され、調査区内では北西から南東方向にほぼ直線的に延びています。関東ローム層を掘り込んで造られていて、底部の幅は北側で1.5m、南側で6m以上を測り、両側には側溝と思われる溝状の掘り込みが認められました。

## さんなものでたよ



総角付環座 (菊)

障子板

総角付環座 (鳥)

## 【下馬周辺遺跡出土 鎧その後】

本誌17号でお伝えした鎌倉市下馬周辺遺跡出土の鎌倉時代の鎧について、その後わかったことをご紹介します。見つかった時一領(一着分)に見えた鎧は、詳しく調べたところ、足りない部品があったり、二領分含まれている部品があったりしました。上のX線写真は鎧の肩の部分に付く金具(障子板)と総角付環座(あげまきつけのかんざ)です。総角付環座は鎧の背に一箇所付くものですが、2点重なって埋まっていた。やや小型のものは菊、大きめのものには3羽の鳥をデザインしています。ほかにも菊のデザイン、鳥のデザインの小さな部品がありました。どうしてそのような状態で埋まっていたのかはわかりませんが、当時の武士にとって、鎧はまさに勝負服。身を守る実用的な戦闘着であると同時に、色やデザインに凝ったファッション性もそなえていたのです。